

2015 年度聖書の集い（第 2 回）

2015 年 6 月 10 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 320 番 「天(あめ)もみ使いも 神をたたえよ」
- 2、お祈り
- 3、聖書 マタイによる福音書 18 章 21 節～23 節」（新約聖書 35 ページ）
- 4、今日の内容
神さまってどんな方？「② わたしたちをゆるしてくださる方」

普段の生活の中で、「人をゆるす」ということは難しいと感じることはありませんか。レストランで食事をしていたら自分の注文だけ忘れられていたとき、横断歩道の前で立っていたら車が水たまりの水をはね上げながら走り去ったとき、子どもの帽子に歩きタバコをしている人の灰が落ちたとき、子どもが何度叱っても同じ間違いを繰り返してしまったとき、人をゆるすことが難しいと感じるのはわたしだけでしょうか。

今日は、この「ゆるす」という行為について考えていきたいと思います。

① あなたは人をどれだけゆるせますか

聖書には、イエス様に「わたしはいったいどれだけ人をゆるしたらいいのですか」と質問したお弟子さんが出てきます。彼は聞きます。「七回までですか」。

日本にも「仏の顔も三度」ということわざがありますが、聖書が書かれた時代においても、同じ間違いをした人を三回ゆるすことは大変なことと考えられていました。だからお弟子さんが「七回まで」と言ったのは、実はありえないようなことだったのです。でもイエス様は彼に対して言います。「七回どころか七の七十倍までもゆるしなさい」と。

これは 490 回ゆるしたらそれでいいよということではありません。無制限にゆるしなさいということ言われているのです。自分の赤ちゃんだったら、まだゆるせるかもしれない。何回ご飯をこぼそうとも、突然夜中に泣き出しても、買ったばかりのテーブルに油性マジックで落書きしたとしても、ゆるせます。でもどうでしょうか。それが見知らぬおじさんだったら。あるいはその子が幼稚園や小学校にあがっても同じことをして困らせたとしたら。

② 聖書に書かれていること

すべての人を何度でもゆるすなんて出来ない、そのようなわたしたちに、聖書は次のように語ります。

あるところに王様がいました。その王様に多額の借金をしている一人の家来が連れてこられました。その額はなんと日本円に換算すると 6000 億円。到底返せる額ではありません。王様は家来に、その借金を何とかして返すようにと迫ります。家来は必死に王様に頼みます。「どうか待ってください。きっと全部お返しします」。すると王様は家来を憐れに思い、すべての借金(6000 億円)を帳消しにしたのです。

聖書はこの王様の姿こそが、神さまの姿だといいます。正直、ピンとこない方も多いと思います。「神さまに借金した覚えなんかない」と思うのが普通です。わたしも教会に行きだしたとき、いつもそこに引っかかっていた。

でも毎日過ごしている中で、気がつきます。わがままで、自分勝手に、頑固な自分自身に。きっとたくさん神さまを困らせ、悲しませているのだらうなと思うのです。その積み重ねが、自分では負いきれないほどの借金になっている。でも神さまは、そんなわたしたちをゆるしてくださるのです。

③ ゆるされたわたしたちは

聖書の物語は、そこで終わりません。6000 億円の借金を帳消しにしてもらった家来は、帰る道の途中で一人の人物に出会います。その人は家来に対して、借金をしていました。その額は 100 万円。決して少ない額ではありません。ですが 6000 億円に比べたら。

しかし、6000 億円をゆるされた家来は 100 万円を返さなかったその人をゆるすことができませんでした。そしてそのことを伝え聞いた王様は家来を牢に入れたということです。

わたしたちが「人をゆるせない」と思う気持ち、それは神さまからたくさんのゆるしをいただいていることに気づいていないから、出てくるものなのかもしれません。実際に「ゆるせない」と思うことは多々あります。でもその時に、神さまが、また家族や周りの人たちが、そして子どもたちが、わたしたちのことをゆるしてくれていることを思い起こしましょう。

さらに最後にもう一つ。大切な子どもたちにも、「ゆるしてもらっている」喜びを感じて欲しいと思います。心から、たくさんのことをゆるしてあげてください。神さまがゆるしてくれていることを伝えてあげてください。そうすることで、きっと子どもたちも、心から人のことをゆるしてあげることのできる子どもになってくれるのではないのでしょうか。